

編 集 後 記

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報『ジェンダー研究』第18号が無事刊行の運びとなった。執筆者をはじめ、学内外の査読の先生方、毎年日本語校正を担当下さる加美芳子さん、英語校正者のアレックス・ヘンディさん（ジャパン・ジャーナル社）、印刷会社、IGSスタッフ、その他さまざまな形で関与くださる方々のおかげであり、ご協力に深く感謝したい。

今号の特集は、昨年度2014年1月25日（土）に開催の国際シンポジウム「東アジアにおけるジェンダー主流化——現状と新たな挑戦」より、4人の報告者（黄氏、金氏、ルオン氏、三浦氏）ならびに2人のディスカッサント（足立IGSセンター長、伊田氏）に寄稿いただいた。緒言「『ジェンダー主流化』の理論と実践」は同シンポジウムで司会を担当したIGSの申准教授が執筆している。緒言によれば、東アジアにおけるジェンダー主流化の推進状況は、金融危機ならびに各国で誕生した保守政権下のジェンダー政策と密接に関連している。政策の最新状況や、政策推進の過程で浮上した種々の課題を、台湾、韓国、ベトナム、そして日本を事例に論じる本特集は、「女性の活躍」や「輝く女性」を掲げる保守政権下日本のみならず、開発独裁といった国家資本主義の立場から経済発展に女性を「活用」してきた多様なアジアの「ジェンダー平等」を考察する上で極めて有用な示唆を与えていると言えよう。

投稿に関しては、本号では7本が提出され、厳正なる審査を経て、1本の投稿論文と2本の研究ノートそして3本の書評論文が採用された。投稿論文は、特集論文として掲載したもので、台湾の保守政権下でのジェンダー主流化の実践を不安定な連携と捉えている。研究ノートはそれぞれ、20世紀初頭の日本から中国への女子教員派遣を豊富な資料をもとに考察した加藤論文、そして「草食系男子」「オタク」「ネトウヨ」をキーワードに、日本の社会経済変化と男性性の変容を論じた熊谷論文の2本となった。いずれも、ジェンダー研究の重要な課題を扱った論考となっている。

書評論文冒頭の3本は、本学の博士前期課程、後期課程の大学院生による積極的な応募から閲読を経て掲載の運びとなった。そのほかにも、社会学、政治学、経済学、人口学、哲学、倫理学といった幅広い領域から8点を取り上げ、各専門領域における気鋭の研究者に執筆を依頼し、多方面におけるジェンダー研究の最新動向を確認できる充実した構成となった。また本号末尾には、2014年11月1日に国連大学との共催で開催した国際シンポジウム「サステナビリティとジェンダー」の記録を掲載している。本シンポジウムで提示された各報告者の資料は、当センターのホームページにて閲覧することが可能である。あわせて参照されたい。

なお、今号より本年報は、刊行後IGSホームページにて即時公開とした。近年は、刊行費が削減され、厳しい状況で編集作業をおこなっているが、冒頭に記した多くの方々のご支援、ご協力のおかげで高い評価を得ている本年報の質的水準を保つことが出来ている。改めて感謝を申し上げるとともに、ホームページでの即時公開によって、ジェンダー研究に関する議論がこれまで以上に活発に展開されることを願っている。

編集事務局 平野 恵子（研究機関研究員）

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報
『ジェンダー研究』

第18号 編集委員会

委員長	足立真理子	人間文化創成科学研究科人間科学系 ジェンダー研究センター長・教授
	森 義仁	人間文化創成科学研究科自然・応用科学系教授
	天野 知香	人間文化創成科学研究科文化科学系教授
	荒木美奈子	人間文化創成科学研究科人間科学系准教授
	水野 勲	人間文化創成科学研究科人間科学系教授
	申 琪榮	人間文化創成科学研究科人間科学系 ジェンダー研究センター准教授
事務局	平野 恵子	ジェンダー研究センター研究機関研究員

平成27年3月17日 印刷
平成27年3月23日 発行

編集・発行 **お茶の水女子大学ジェンダー研究センター**
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
Tel 03-5978-5846 Fax 03-5978-5845
E-mail igsoffice@cc.ocha.ac.jp
URL <http://www.igs.ocha.ac.jp/>

印刷・製本 **株式会社コームラ**
Tel 058-229-5858(代) Fax 058-229-6001
